

平成29年4月24日

各位

和歌山大学教育学部附属特別支援学校  
校長 林 修  
(公印省略)

## 平成29年度 公開研修会について (御案内)

惜春の候、皆様方におかれましては、益々御健勝のことと存じます。

平素は、本校の教育に御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本年度公開研修会を下記のとおり開催します。大変お忙しいとは存じますが多くの方々の参加をお願いします。

なお、申し込みは、5月26日(金)までとなっています。必要事項を御記入の上FAXもしくはメールにてお願いします。

### 記

#### 1 日時

平成29年5月30日(火) 15時30分～17時00分(受付15時～)

#### 2 会場

和歌山大学教育学部附属特別支援学校

〒641-0031 和歌山市西小二里2-5-18

#### 3 講演

「万人の学習権保障をベースとしたインクルーシブな授業・学級・学校づくり」

講師 和歌山大学教育学部 教授 山崎 由可里 先生

#### 4 講演要旨

「学校に子どもを合わせるのではなく、子どもに合った学校をつくろう」。これは、京都府立与謝の海養護学校開校当時(1969年)において、学校づくりと教育実践の基本となったことばです。1979年度からの養護学校義務制実施に先行すること10年、就学猶予・免除の対象だった重度重複障害児も含め希望者全員就学を目指した同校は、いわばインクルーシブ学校のさきがけであったと言えるでしょう。

そして、上記のことばをもう少しミクロな視点で置き換えてみると、例えば、授業のあり方であれば、「教師の指導(力)に子どもを合わせるのではなく、子どもの理解の仕方・理解力に合った授業をつくろう」と言えるのではないのでしょうか。また、障害者権利条約や障害者差別解消法の中核をなす「合理的配慮」(マクロな)の視点で言えば、教育条件の整備や学習指導要領を含む教育課程の再考など、マクロな課題も浮き彫りになってきます。

以上のような問題意識から、(私自身も含め)今までの通常の教育・特別支援教育のあり方を再考し、「誰も排除しない」インクルーシブな教育の具体化について、ミクロとマクロな視点から考えてみます。

#### 5 その他

- ・ 駐車場は限りがありますので、できる限り、公共交通機関を御利用ください。
- ・ 公開研修会に参加申し込みされる方で、手話通訳等合理的配慮を希望される方は、5月9日(火)までにその旨を御連絡ください。

## 平成29年度公開研修会 参加申込書

所属	
御氏名	
TEL	
FAX	
e-mail	
備考	

- ・所属欄には、学校名、施設名、保護者等ご記入下さい。
- ・御氏名欄には、参加希望の方のお名前をご記入下さい。
- ・TEL、FAX、e-mailは、こちらから連絡を差し上げる必要ができた場合、使用させていただきますので、ご記入下さい。
- ・個人情報については、本校にて管理し、本公開研修会のみで使用させていただきます。

☆申し込みは、メール又はFAXにて研究担当（小畑）までお願いします。

※申し込み締切日は、**5月26日（金）**です。先着100名

和歌山大学教育学部附属特別支援学校  
〒641-0031  
和歌山市西小二里2丁目5-18  
TEL 073-444-1080  
FAX 073-447-2597  
e-mail wft-kenkyu@center.wakayama-u.ac.jp  
H P <http://www.pal.wakayama-u.ac.jp>